

20人の議員が市の考えを問う

第4回定例会の一般質問が9月2・3・4・5日の4日間にわたって行われ、20人が質問しました。質問と答弁を要約した内容を通告順に掲載します。

たなか よしかつ 田中 喜克	1 土地開発基金の効果的な運用で「将来の夢あるまちづくり」を 2 計画的に整備された道路交通で、安全安心の生活を 3 いつ起こるかわからない地殻変動・大地震への対応と私たちの日ごろの備えは 4 「環境未来」、「全世代の集い」、「災害避難場所」の機能を有する全天候型木製屋内ドームの建設を
いとめ まさき 糸目 仁樹	1 入所型障害者支援施設の拡充支援を 2 乾田直播の米作り支援で農業人口の誘導を
ほり いくこ 堀 郁子	1 災害関連死を防ぐための取組について 2 災害時における個別避難計画の作成・運用体制について 3 義務教育で話せる英語力 4 個人宅に防犯対策補助を 5 貴生川駅前に市の書店を
きむら まさお 木村 眞雄	1 学校再編における今後の学校教育の方向性について 2 自治会未加入世帯への対応について 3 ヒアリングフレイル予防について
なかじま ゆうすけ 中島 裕介	1 新名神甲賀工業団地の進捗について 2 熱中症対策を市民全体の取組として
おぐら つよし 小倉 剛	1 農業の持続的な発展について 2 安定型産業廃棄物処分場建設計画について
おくむら のりお 奥村 則夫	1 この市を若者の住みたいまちに 2 多文化共生社会について
やまおか みつひろ 山岡 光広	1 居所不明(失踪中)高齢者の預金通帳から後期高齢者保険料を差し押さえ地方自治体がすべきことか 2 自治振興会制度の見直し、特に自治振興交付金の見直しについて 3 第二次甲賀市小中学校再編計画 特に特認校のよさをどう生かすのか 4 市役所女性トイレに生理用品を 第二弾
にしむら けい 西村 慧	1 県道柑子塩野線(甲南町野尻地先)の延伸について 2 協働のまちづくりのための執行機関の広聴活動について 3 通学時間帯における安全確保の徹底について 4 「見るスポーツ」の魅力と可能性について
おかだ しげみ 岡田 重美	1 被爆80年の年、日本政府が核兵器禁止条約を批准、市の平和事業を推進することについて 2 女性相談支援員について 3 南土山地先における安定型産業廃棄物最終処分場建設計画について 4 荒廃した茶園の対策について 5 旧東海道土山大野間のカラー舗装の修繕について
でぐち まさゆき 出口 雅之	1 貴生川駅周辺整備事業の進捗状況について 2 国スポ・障スポのレガシーを生かす取組みについて
むらき けいたろう 村木 慶太郎	1 行政と民間が連携する地域づくりの推進について
えびすき ひろし 戎脇 浩	1 小学生下校時の熱中症対策を 2 機構改革と公民連携の現状を問う 3 東海道「暮らし・にぎわい」再生事業の推進について
ふくい すずむ 福井 進	1 甲賀市小中学校再編計画(基本計画)について 2 「人権尊重のまちづくり」の推進について 3 産業廃棄物最終処分場の建設について
はしもと りつこ 橋本 律子	1 部活地域移行の体制づくりについて 2 より効果的・透明性の高い財政運営へ 3 地域共生社会の実現に向け
にしだ まこと 西田 忠	1 住民にも職員にもやさしい窓口業務を目指して 2 シルバー人材センターの更なる活用を
にしやま みおる 西山 実	1 水口城址お堀周りの巨木の伐採を含めた抜本的な管理を 2 小中一貫校の推進問題について 3 空き家対策の強化、住宅リフォーム補助の拡充を 4 地域公共交通「岡山モデル」について 5 市営住宅の周辺環境の適切な管理について
きただ れいこ 北田 麗子	1 子どもが生まれるまでの支援について
たになが けんじ 谷永 兼二	1 公民連携事業の現状と課題および公共施設等総合管理計画と公民連携について 2 事前復興まちづくり計画について
はしもと ひさのり 橋本 恒典	1 滋賀県の東の玄関口「甲賀市」 2 市の電気使用料について 3 中山間地域の農業の支援について 4 下水道の維持管理に伴う安全管理について

ここに掲載する原稿は、質問者の責任において提出されたものです。

QRコードで質問の録画が見られます。



公明党

堀 郁子



災害時に関連死を防ぎ、避難情報発令システム導入、駅前に市の書店を

質問

①避難所運営マニュアルに要配慮者対応を入れては、また誤嚥性肺炎予防や口腔ケア・嚥下障害対応食材、害虫・害獣対策の記述や備蓄はどうか。トイレカーの導入はいかがか。自治会単位で発令できる避難情報発令システムを導入し、個別避難計画の作成・運用できるよう避難時移送や避難生活サポーターを養成しては。

回答

①避難所運営マニュアルには優先順位を考え検討する。リゾット食は2,500食備蓄。必要な衛生用品は優先度合を見て備蓄を検討し協定も考える。トイレカーの導入は広域総合支援体制もあり総合的に判断する。避難情報発令システムの導入は有効だが未検討。県の防災システムや県内自治体と連携する。サポーターは調査研究する。医療ケアが必要な方の個別避難計画は14人作成。自助・共助の運用体制は啓発、公助は体制進めている。②書店を含む図書に関する施設を周辺と一体化して検討する。



自由民主党 誠翔会

田中 喜克



「環境未来」、「全世代の集い」、「災害避難場所」の機能を有する「全天候型屋内木製ドーム」の建設を

質問

「国スポ・障スポ」の甲賀市メイン会場に「全天候型屋内木製ドーム」の建設はできないのか。

回答

整備から50年老朽化や時代変化に対応するため、管理棟や人工芝化など再整備を行っている。現状「全天候型屋内木製ドーム」の整備は計画には無いが、子供たちが天候や季節に関わらず楽しめる屋内遊戯施設の整備をはじめとした「スポーツの森」再整備に係る公民連携事業の可能性を業務の中で検討する。

土地開発基金の効果的な運用で「将来の夢あるまちづくり」を

質問

住民の願う社会基盤の整備、まちづくりに「土地開発基金」の活用が出来ないか。

回答

「土地開発基金」の在り方は、将来的にも効率的な運用ができるように配慮しつつ、その必要性、緊急性等を判断しながら、適正且つ積極的な事業の執行と健全な運営に努める。



公明党

木村 眞雄



学校再編における今後の学校教育の方向性について

質問

①小中一貫教育を取り入れる背景と狙いは何か。②小学校と中学校との違いを、一貫教育の中でどのようにまとめるのか。

回答

①中1ギャップの解消や授業改善の促進、学力向上、不登校やいじめ等の教育課題の解決に向けた取組として導入を目指してきた。一貫教育の導入により、めざすこども像を共有し、義務教育9年間を見通して系統的な教育を展開する。②指導体制を9年間ととらえ、児童生徒の学習状況や生活状況、課題等を共有し、個別の指導に繋げる。

自治会未加入世帯への対応について

質問

当該地域では、市からの情報が十分に届かない。生活をする上で必要な情報を届ける具体的な対策は。

回答

ごみカレンダーや健診カレンダーは、市民センターに配置や全戸配布も検討する必要がある。

ヒアリングフレイル予防について

質問

今後の取り組みは。

回答

本予防を介護予防策の一環として推進する。



無所属

糸目 仁樹



重度の知的障がい者の方の親亡き後の支援を

質問

障害のある方の親が共通してもつ悩み、それは自分亡き後の我が子の行く末。特に重度の知的障害を持つ方を支援する入所型障害者支援施設は、自立した方を支援するグループホームより少なく、施設に入れない人が多い。重度の知的障害を持つ方々が、親亡き後も安心して暮らせるよう、支援をして欲しい。

回答

障害区分4以上の方は市内で313人、内、施設利用出来ている方は146人で半数以下。施設整備に国・県の補助に加え市の支援も検討し、障害のある方とその家族が安心できる地域づくりを推進する。

乾田直播で休耕田再生と米増産支援を

質問

政府も補助を決めた乾田直播の米作り。育苗ハウス・田植え機が不要で、新規就農者にとって初期投資が低く、若い新規就農者を募りやすい。休耕田を再生させ、米増産の支援を。

回答

就農支援制度の充実、スマート農業の導入推進、農地の確保支援、乾田直播や陸稲栽培などの導入支援を通じ、地域農業の担い手育成や生産コスト低減支援に取り組み、若者や移住者、転職者が参入しやすい農業環境づくりを進める。



自由民主党誠翔会

おくむら のりお
奥村 則夫



この市を若者の住みたいまちに

質問

①若者・子育て世代が選ぶまちの基準なり、指標は。②ある一定のニーズのある中山間地域への施策・対策・広報が必要では。③若者・子育て世代に移住やＵターンなど、他のまちから選ばれるための施策は。④若者・子育て世代の流出を抑える施策は。⑤若者・子育て世代だけでなく、若者・子育て世代の流出を抑えるため、親世代の意識改革や地元での幼少期の思い出に地元を刻み込むような施策を推進するべきでは。

回答

①「暮らしの利便性」「子育て・教育環境の充実」、「働きやすさ」、「安心・安全」。②中山間地域においてもしっかり取り組んでいく。③「移住支援事業」、「おためし暮らし事業」、「結婚新生活支援補助金」など。④全ての事業、施策が市民の皆様へのサービスとなり、結果的に若者・子育て世代に「住み続けたい」と思われるまちづくりに繋がると考えるが、若者を直接にターゲットとした定住施策は不足していることから、「わかもの会議」で若者目線によるアイデアやご意見をいただき施策の検討を進める。⑤若者・子育て世代の流出を抑制する施策構築を進める際には、議員ご指摘の視点を踏まえ施策を推進する。



自由民主党誠翔会

なかじま ゆうすけ
中島 裕介



新名神甲賀工業団地の進捗について

質問

①この開発について出てくる200haについて、開発に大事なものは「開発事業者とのビジョンの共有」としてどのような思いを持って進めようとしているか伺う。②民間企業のスピードに行政がついていけるかという組織機動力について市長の所見を伺う。

回答

①「広域的な交通網を活かした活力ある産業・交流都市の実現」をビジョンとして、開発及び事業を実施する事業者とビジョンの共有を図りながら、能動的にコーディネートし、地域の「稼ぐ力」や「地域価値」を高め、事業を前に進める。②リーダーシップをとり少しでも解消できるように進めることはもちろん、県、国の許認可等時間を要する内容については、滋賀県知事にむけて、現在、完了まで約5年を要している滋賀県環境影響評価条例の手続きの迅速化、また、対象面積の要件緩和などについて、直接、申し入れを行っており、関係機関との連携を強化し、制度面での柔軟な対応を図っていき、民間のスピード感に遅れを取らぬよう進めていく覚悟。



日本共産党甲賀市議員団

やまおか みつひろ
山岡 光広



失踪中の高齢者から保険料を差押え

質問

居所不明(失踪中)高齢者の通帳から後期高齢者の保険料を差押え。親族に一言の報告もなし、なにより本人は、後期高齢者医療に加入したこともないし、医療サービスを受けたこともない。「手続きに法的問題はない」といっても、地方自治体がすべきことか。

回答

法律に基づき手続きをしたが、親族に対して説明や配慮に欠ける結果となったことは大変申し訳ない。特例措置は、国において精査・検討すべき課題なので、国に報告させていただく。

小中学校再編・特認校のよさを生かせ

質問

「甲賀市にとって貴重な教育的資産」と評価した特認校をなぜ統合するのか。子どもが減少する中で、再編は一定理解もするが、特認校の良さをどう引き継ぐのか。小規模の学校も残し、「選択」するという考えを視野にいれなかったのか。

回答

特色ある教育活動や多様な学びを継承する等の取組をすすめる。



自由民主党誠翔会

おぐら としゆき
小倉 剛



安定型産業廃棄物処分場建設計画について

現在、廃棄物処理法や滋賀県環境影響評価条例に基づいて手続きが進められていることから、引き続き、市民の皆様の声をしっかりとまず事業者に向け、皆様方の不安や懸念が払拭されるよう働きかける。また、県に対しても、環境影響評価の各段階において徹底した審議、審査が行われるよう強く求め、本市の自然環境や生活環境の保全のため、市として与えられた権限の範囲内で最大限、地域住民の皆様方に寄り添っていく。

農業の持続的な発展について

質問

甲賀市内の地域計画策定に対し、どのような施策が必要と考えは。

回答

地域計画の策定が最終目的ではなく、策定した地域計画に基づき取り組むことが重要であることから、市独自で雇用している人・農地推進員を中心にフォローアップを行い、地域のニーズに沿った農地の集積や集約化、スマート農業の導入などの支援を継続し、農地利用の効率化を進め、持続可能な農業を目指していく。



凜風会

でぐち
出口

まさゆき
雅之



貴生川駅周辺整備事業の進捗状況について

質問

①「貴生川駅周辺整備事業」の目的は？②第1回「貴生川駅周辺都市づくり懇談会」から長期間経過後も場所の確定ができない理由は？③高度利用をしていく必要は？④公民連携事業を成功させるためには？

回答

①人口減少対策、ダム機能の強化、地域の活性化、JR草津線の利用者の増加。②整備手法の変更や駅南口だけでなく周辺も含めたエリアとしたために対象範囲が拡大。③必要性に応じて検討。④公民連携事業の成功のために積極的な営業活動を行う。

国スポ・障スポのレガシーを生かす取組みは

質問

①BIWA-TEKUの利用状況は？②甲賀スタジアムでなぜ硬式野球大会は開けないのか？③大人世代に対するスポーツ振興はどのようなことをされているか？④国スポ・障スポのレガシーを受け継ぐためには？

回答

①本市のアプリ登録者数は2,733人、滋賀県全体では58,189人。②運営上の障壁は特になく、大学野球のリーグ戦など硬式野球大会が開催。③「ふれあいゆるスポフェスティバル」においては、運動のきっかけづくりを行う。④次世代アスリートの育成支援をスポーツ先進地としてのまちづくりを進めていく。



無所属

むらき
村木

けいたろう
慶太郎



行政と民間が連携する地域づくりの推進(公民連携)について

質問

①市民や民間事業者への影響について伺う。②道の駅あいの土山における民間を巻き込む戦略は。③貴生川駅周辺整備事業における民間との連携は。④商工会との連携について。

回答

①公民連携で民間のノウハウとスピードを取り込み、市民サービスとエリア価値を向上。民間には新たな商機も生む。第2次甲賀市総合計画第3期基本計画でも推進を掲げ、協働に加えて民間連携を一層進める。②再整備基本計画に基づき、関係事業者と連携し農業振興や福祉連携を推進。新たな土産や福祉事業者様の商品の販売、チャレンジショップや体験・イベント等で集客を図り、民間の創意工夫を活用していく。③交流拠点施設の整備等を公民連携で検討中。事業スキーム構築や運営者の計画段階からの参画を想定。行政は最低限の条件提示にとどめ、運営者主導の企画と使いやすい建築を重視し、先行事例を踏まえブラッシュアップしていく。④貴生川エリアプラットフォーム会議のメンバーとして参画。個別意見聴取や意見交換を継続し、出店等で協力が見込まれる市内事業者として計画進捗の共有・情報交換の機会を設けていきたい。



凜風会

にしむら
西村

けい
慧



県道柑子塩野線の延伸について

質問

レイモンド甲賀こども園付近から東(甲南町池田方面)へ延伸することの所見は。

回答

野尻交差点の通行車両が少なくなり、歩行者の安全確保の為の選択肢の一つだ。

執行機関の広聴活動について

質問

広聴の成果を政策・施策・事業に反映し、市民の皆さんが納得できる行政を。

回答

事業過程において、全庁的に広聴の意識づけを推進していく。

通学時間帯の安全確保徹底について

質問

毎朝、多くの児童が通行する寺庄地先～甲南第一小学校までの通行規制の検討を。

回答

時間帯による一方通行などが考えられるが、地域との慎重な検討が必要である。

「みるスポーツ」の魅力と可能性について

質問

「みるスポーツ」の効果は。

回答

幸福感をもたらし、心身の健康増進に繋がるとされている。また、地域経済活性化や観光振興にも繋がる。



日本共産党甲賀市議員団

おかだ
岡田

しげみ
重美



女性相談支援員の体制強化を

質問

DVなど困難な問題を抱える女性の相談は多い。女性相談支援員は会計年度任用職員1名が配置されているが、正規職員とすべき。また複数配置し体制強化を。

回答

正規職員の配置も検討しているところ。寄り添った支援、迅速な対応ができるよう複数配置も考えている。

南土山地先産廃処分場建設計画について

質問

地元をはじめ野洲川下流域住民の水質汚染等に関する不安は大きい。県内最大規模となる産廃処分場が、野洲川の上流、自然豊かな地に造られてよいのか。

回答

住民の不安・懸念が払しょくされ、自然や生活環境が保全されるよう、県に対し徹底した審査が行われるよう最大限努力したい。

荒廃した茶園の対策について

質問

後継者がなく荒れた茶園が多くなっている。このままでは更に荒廃茶園が広がり、環境や景観などの悪化が深刻化する。荒廃茶園への対策はどうか。

回答

第三者の茶農家が荒廃茶園を解消する場合、市独自の支援を行っているが、全ての荒廃茶園の解消には至っていない。関係機関と支援策について協議を進めたい。



凜風会
はしもと
橋本 律子



中学校部活地域移行の体制づくりは 学校・地域・団体等と段階的協議で

質問

①体制づくりの現状と今後を伺う。②人材発掘・育成・人材派遣の現状と後は。③部活動の現状と、教員の負担軽減はどう考える。今後連携をより良いものに。

回答

①部活動地域移行検討協議会を設置。スポーツ・文化の関係団体参画のもと、展開のあり方など、有識者からの意見をいただき協議を進める。10年度までは、休日部活動を地域で行う予定。②現在、14人の指導員・4人の専門員が活動されている。今後県の人材バンクも活用し確保に努める。③市内6中学校に19種目、運動部65・文化部18があり、加入率80.6%。最多加入部はソフトテニス部で全体の20%。教員の時間的・精神的負担が軽減できてきていると考える。地域との連携のもと良い制度に繋げたい。

より効果的・透明性高い財政運営を !!

質問

外部監査指摘事項の見直しにより補助金適正化は。

回答

令和元年～6年までに1割程度縮減できた。終期徹底周知(消費税除外改正)も。



自由民主党誠翔会
えびすわき
戎脇 浩



水口中心市街地・暮らしにぎわい再生事業の 推進について

質問

①市の最上位計画である「総合計画」に明記された、水口中心市街地の活性化事業は地域の期待も大きい。その最終目標は。また現状は。②水口東部の三筋地域には公共施設整備の必要性が高いと考える。また例えば本水口のトイレ改修などは緊急を要するが、計画策定を待てないものの対応は。③民間投資や必要な業態の誘致にも、市が積極的な役割を果たすべきだと考えるが、どうか。

回答

①東海道の宿場町、城下町の風情を感じながら便利で質の高い暮らしを営むことができ、若者・子育て世代を含む多くの人に「住みたい、住み続けたい」と思われるエリアを形成することが最終目標。そのために策定する地域ビジョンは人口減少対策の観点からも重要性の高いプロジェクトであり、現在策定委員会の委員選定を行っている。②エリア価値を高めるためには、公共投資の検討も必要で、緊急の課題には担当課と協議の上で進める。③地域ニーズの実現のための民間事業者や投資を呼び込むことは重要であり、役割を果たす。



凜風会
にしだ
西田 まこと



住民にも職員にもやさしい窓口業務を

質問

①9月末で火曜日の延長窓口を終了するがその経緯は。②県内各地で窓口業務の時間短縮(9時～16時45分等)の動きが高まっているが。③聞こえをサポートする機器を窓口を設置できないか。

回答

①マイナンバーカードの普及に伴い、オンライン請求などの利用が増加してきた。②市民サービスへの影響等を十分に情報収集し、検討を進める。③有効なツールであり調査・研究し、市民に寄り添った窓口対応に努めたい。

シルバー人材センターの更なる活用を

質問

①甲賀市シルバー人材センターの入会率をどう捉えるか。②受託する仕事内容について最近の傾向は。③シルバー人材の助けを借りて信楽高原鉄道沿線に花を育て観光列車化しては。

回答

①全国でも先駆的な運営をされており、入会率は全国平均を大きく上回る。②派遣事業のニーズが増加、令和6年度初めて受託事業を上回った。③地沿線住民と一体となった景観づくりができないか、信楽高原鉄道と連携し検討したい。



無所属
ふくい
福井 進



よりよい小中学校の再編を

質問

①特認校は、不登校の改善にもつながっており、存続を望む声がある。どのように配慮をするのか。②雲井・佐山・大野小学校を新たな選択肢として存続すること。

回答

①特認校の案内時に学校再編により就学を取り消すことと規定しており、学びの多様化に対応する機関と連携のもとで、丁寧に進めていきたい。②きわめて小規模の小学校の児童数を増加させること等を目指したが、児童の転出による課題もあり、市全体の教育環境を鑑み、新たな特認校(選択肢)を追加する考えはない。

産業廃棄物最終処分場の建設

質問

①石綿(アスベスト)に関する市長意見と業者の見解について。②「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」と建設計画との関係について。③市長の建設に関する見解と今後の対応について。

回答

①法令で認められている石綿も含め、石綿を除外してほしい旨の意見を出したが、現時点で市の希望は認められない結果となっている。②この事業は、甲賀市の条例の審査対象になることから、県の関係機関と連携し審査を行う。③地域住民の不安を払拭するためにも、与えられた権限の中で最大限の努力をしていきたい。



凛風会
たになが
谷永 兼二



公民連携事業の現状と課題・公共施設等 総合管理計画と公民連携

質問

①公民連携とは。目的、期待される効果は。②公共施設等総合管理計画の効率的な管理運営として、公民連携による民間のノウハウを活用できる運営方式の検討は。

回答

①課題解決のための戦略のひとつであり、持続可能な形で質の高い新たな市民サービスを提供していくことが目的。また、まちの課題を解決するため、それぞれが持つ強みを活かしながら、経済合理的な取組を進めていく。期待される効果は、公共事業としての信用性の上に、民間事業者のノウハウやスピード感が加わり、市民サービスやエリア価値の向上につながると同時に、民間事業者にとっても新たなビジネスチャンスにつながっていく。
②公共施設の本質的な課題は、施設の維持管理費用等の一連のコストにかかる財政負担の軽減・平準化を実現し、公共施設等の適正な管理と最適な配置を推進することにある。経済性や市場性の視点をもつ民間事業者のノウハウを公共施設の維持管理等に取り入れ、コスト縮減やサービス向上を目指すほか、大規模改修・施設整備においても民間資金投入の可能性を探っていく。



日本共産党
にしやま
西山 実



地域公共交通「岡山モデル」について

質問

岡山市では、地域公共交通網を守るために「交通事業者等との協議を行い、各種施策を実施」、「運転手確保のために二種免許取得にかかる経費を補助」、「国の補助を活用し、市内共通のICカードシステムを構築し、利便性を確保」等を実施している。甲賀市に活かすことができないか。

回答

交通事業者との協議や民間運行事業者への補助制度など、本市がすでに実施している事業もあるが、「国庫補助金の活用」や「地域が主体となった乗合タクシーの運行」、「ICカード活用による65歳以上の方の割引乗車制度」や「路線の効率化」など本市の課題解決に参考になる事業が多く、研究を進める。

小中一貫校の推進問題について

質問

小中一貫校については様々なデメリットが指摘されている。①甲賀市が目指す「小中一貫教育の推進」の形態は。②保護者や地域住民等に丁寧な説明と合意が必要。

回答

①将来的には義務教育学校の創設も視野に入れながら、小中一貫型の小中学校として、「併設型」の形態を基本に実施したい。②市民や保護者の皆様への説明会において小中一貫教育について具体的に説明する。



凛風会
はしもと
橋本 恒典



滋賀県の東の玄関口「甲賀市」

質問

①滋賀県の東の玄関口としての甲賀市の将来イメージは。②県の東の玄関口「甲賀市」今後の取組について伺う。

回答

①新名神高速道路、名神名阪連絡道路、鉄道交通の整備・発展により滋賀県の経済活動を牽引するような「経済的な豊かさ」と併せて、本市の深い歴史や先人が紡いで来られた文化に包まれ、自分らしいライフスタイルを実現する「甲賀スタイル」や「新しい豊かさ」により、滋賀県の「東の玄関口」として魅力と活気にあふれる都市を形成していくことをイメージしている。②道路インフラの整備に伴い大都市圏とのアクセスが一層向上し、物流・人流の結節点として、本市のポテンシャルは飛躍的に高まっていくことが期待されているところであり、滋賀県の東の玄関口として、将来を見据えた中で産業集積に伴う企業誘致にしっかりと取り組み、安定した税収にも繋げていきたいと考えている。また、都市計画決定や地区計画の活用が必要となり、企業立地や商業施設の適正な配置についても検討していく必要がある。



自由民主党誠翔会
きただ
北田 麗子



子どもが生まれるまでの支援について

質問

①妊娠前の困難さを支援することについて市の考え方は。②不育症・流産・切迫流産に直面される方に対する支援は。社会的理解促進を行っていくことについて。③プレコンセプションケアについて本市の見解は。④子どもがいる人生・いない人生に関わらず「新しい豊かさ」を実現していくことが大事とした上でも、『子どもが生まれるまでの支援』は重要。いかがか。

回答

①身体的・精神的・経済的な負担を支援していくことは重要な課題と考えている。市として必要な支援を実施していきたい。②偏見や無理解が当事者の自責感や罪悪感・孤立感を助長させてしまう。社会全体で正しい知識・理解を広めていくことが大変重要と考える。③将来のライフプランや妊娠・出産に備えるための健康管理に関する正しい知識を広めることは重要と認識。④社会全体で妊娠前・妊娠・出産・子育てを支援する環境を整備するために、子どもの間からのプレコンセプションケアが重要。さらに一人ひとりが叶えたい甲賀スタイルを実現できる社会をめざし、基礎自治体としてしっかりサポートしていきたい。